



読売歌壇



小池 光選

しみじみと宝物とぞ思ふなるこのやはらかに春の猫抱く
鹿嶋市 加津牟根夫

【評】猫好きなら誰でもわかる心境。やわらかく、暖かく、抱き上げてまさしく「宝物」だ。人間より猫の方が抱き心地がよい。ある時期から人はそうなるものらしい。

終刊を決めし主宰は梅匂ふ先師の句碑の前にぬかづく
日立市 鶴岡 育枝

【評】短歌や俳句の結社誌、同人誌の終刊、廃刊相次ぐ。もっぱら高齢化のため。継ぐ人がいない。先師の墓にぬかづいて終刊決意の報告をする主宰者、その心中はいかばかり。

スイングし「東京ブギウギ」うたひたり姫三人の真昼のカラオケ
富山市 杉浦 良子

【評】ドラマ化されて人気沸騰の「東京ブギウギ」。年配女性がカラオケで歌いまくる。真昼からというところがすごい。降参。

白飯に味つけ海苔と漬け物があれば満足 老いわたりの食事
兵庫県 和泉 純子

背負はれて何の記憶もあらねども引揚げ者ですと吾も言ふなり
八王子市 斎賀 勇

子供らしくない子供だねと言われし日わざとスカートに泥こつけた
松江市 犬山 純子

遺されし眼鏡ケースに夫がメモ「浪花のことも夢のまた夢」
座間市 高田 孝子

電球をぐるぐる回して替はるのと今もしている昭和の家で
つくば市 岩瀬 悦子

探せども出ぬ失せ物をあきらめて買へば悪意のじく現はる
稲城市 山口 佳紀

栗木 京子選

まだ慣れぬランドセル背に兄の手に引かれて逃げたチリ津波の朝
旭市 工藤 豊

【評】一九六〇年五月にチリで発生した大地震。太平洋を伝播して津波は日本列島を襲った。小学生だった作者の感じた恐怖、そして兄の頼もしさ。強烈な記憶が詠まれている。

山桜ひとり咲いてはいるさう丘への道は立ち入り禁止
富山市 荒井ゆみ子

【評】元日の能登半島地震の影響で立ち入り禁止になっているのかも。山桜を見に行けない寂しさ。山桜を擬人化して「ひとりで」と表したことで心情が深まった。

短命と告げられし娘と半世紀共に歩みて我は傘寿に
東京都 村上八重子

【評】短命と言われた娘は無事に五十歳を越えた。そして作者も八十歳に「共に歩みて」に親子の結び付きの尊さがうかがえる。

画面より救い出したし空爆の埃に白く怯える子らを
大阪市 真野 良子

問い詰められ苦し紛れに子供らは記憶にないと政治家真似て
熊谷市 間中 昭

よびよると宇陀産小豆の匂いたち砂糖入れまじ悲喜交せて桜語れる齢なり明日は八十の我が誕生日
宇陀市 大畑美千代

細胞の代謝のごとし気がつけば角部屋の人が替わり早春
狭山市 若松 吉弘

サンダルを履いて逃げる白鼻心負けた私は案山子になった
新座市 石川 時子

誘われて七十過ぎて卓球はじめ八十で止め元氣な百歳
東京都 市村弥栄子

俵 万智選

つらいとき見上げる空はすくく青 そつじやないときそれなりの青
枚方市 坊 真由美

【評】「つらい」「そつじやない」、「すくく」「それなり」というシンプルな対比が印象的で、思いがストレートに伝わってくる。本当は空はいつも変わらぬ青なのだけれど、こちらの気分が励ましモードに見えるのだ。

新語ではしつくりこないこの恋は八首ったけとかへぞっこんが合う
上尾市 関根 裕治

【評】今風のスマートさはなく、暑苦しいくらの恋心なのだろう。久しぶりに目にする古風な言い回しが新鮮だ。具体的に示したところがいい。促音が全体に響くところも魅力。改札を抜けて大股に駆けて来るあなたの見えるこの店が好き
東京都 河野多香子

【評】待たされる側であっても、自分のために急いでくれる姿を見るのは幸せだ。

課金しても掴み取るとは限らないクレイジーゲームのようなしあわせ
村上市 鈴木 正芳

窓際の席が人気でなんだかんだ世界はひとに愛されている
那覇市 奥村 真帆

盛り付けを終えた夕げの。「」として端にひと粒置くとトマト
平塚市 小林真希子

孟宗の林に夕陽差し込めば幹の濃みどり光をはじく
市原市 井原 茂明

水溶性だった寂しき雨の中ぐるぐる傘を回して歩く
大和郡山市 本田 岳

もし今もあなたと文通していたら病気のことを書いたらどうか
堺市 一條 智美

鼻をかむただけに生きていくような季節を春と呼びたくはない
東京都 大岩 真理

黒瀬 珂瀾選

無駄でなきひと日過ぎして為しこと手帳に三行書きから寝む
日野市 那須 真治

【評】記録に残されたことだけが事実だ、なんてことを思ったりしました。自分は毎日をしつかり生きていくのか、という問いを日々おのれに課しておられるのでしょう。

見回して出番待ってる生き字引長くなるから誰も引かない
秋田市 菊地 秀悦

【評】何かの会合か。誰か話しかけてくれないかと人待ち顔の長老。でも話し出すと昔語り止まないのが皆近寄らない。「聞かない」を「引かない」と言い換えたのが絶妙です。

隆起した能登の岩海苔畑には強風ふいて波の花舞う
川越市 石田浩一郎

【評】能登半島地震では岩ノリ畑も隆起してしまい、大変な被害が出ている。海の泡が飛び交うさまがより痛々しい。

家中のももろ捨ててただ一つ夫と我との恋文残す
河内長野市 宮守 富

関ヶ原を掲げ敷敷にあいさつを交はし彼岸の道ゆづりあふ
町田市 谷川 治

ゆづらりと浮かぶ海月になりたいと言えは漁師があんな邪魔者
船橋市 花沢富美雄

道をゆく人ら上着を手に持てり春への入場許可証のごと
大和郡山市 大津 穂波

孫を抱く妻を抱きしめかくれんば迷路のような菜の花畑
草加市 伊藤 一男

菜の花に想う揚羽のうすみどり花に染まりて花になりたり
橋本市 宮本 好美

湧き水で醸す尼子の地酒なり守り来たりし辛口の切れ
松江市 三方 純子

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、日本橋郵便局留、読売歌(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇次回は22日(月)に掲載 右の影絵はほたるい